

# [全国初?]開業・独立希望者向けワンストップ移住コーディネート／情報発信機能整備事業 ～やりたいこと、新しくはじめるなら桐生～

## 現状理解

- ✓ 人口減少が進行中（〇〇人）、計画目標〇〇人
- ✓ 黒保根町に続き、旧桐生市も過疎指定
- ✓ 中心市街地では個人店舗が多く（チェーン店が少ない）、桐生の1つの特長となっている
- ✓ 近年、子育て世代の移住、店舗開業が続いている

## 課題・問題意識

- ✓ 移住のハードルとして、移住先での新たな仕事探しが多い
- ✓ 移住検討時の相談窓口が多岐にわたり、個別窓口では全てが解決せず、全体を整理した検討ができない
- ✓ 個別相談窓口は実務的であり、気軽な相談がしにくい
- ✓ 移住検討時に地域に繋がりがなかなか作れず、移住後の暮らしがイメージできない

## 事業の目的・狙い（Why）

1. 自分の生業を持ちたい＝開業・独立意向層を扱うことで、最も大きな移住ハードルをクリアすることができる
2. 開業・独立移住を桐生の特長として打ち出し、差別化できる
3. 子育て世代を想定し、居住エリアとして、黒保根・新里・梅田も含めて定住促進の受け皿とすることができる
4. 移住者の店舗開業→まちの賑わい→新たな来訪者・移住者の獲得、に繋がる好循環を生み出すことができる

## メインターゲット(Who)

- 県内・全国各地域との差別化、桐生ならではの特長打ち出しとして、メインターゲットを「自ら開業・独立したい」と考えている層、と設定
- ① 店舗開業希望者
- ② 起業希望者
- ③ 就農希望者 など
- 年代・形態は、子育て世代の夫婦・家族をメインとして想定
- ※ 市内開業 + 市内居住での追加助成も検討

※ 上記に特長を持たせるものの、全ての移住希望者を支援対象とする

## 業務内容（What）

### 【1】ワンストップ移住コーディネート業務

- 移住検討においては、複数分野・窓口（仕事、住宅、子育て）にまたがるため、1人のコーディネーターがまとめて相談対応を行う
- 伴走役として、個別の情報をまとめて情報提供・提案することで、不安をなくし、意向を高めた状態で、適切な専門部署・窓口へ最終接続する。
- 再来訪きっかけや、移住後の生活イメージ醸成のため、地域との繋がりを重視し、店舗・事業者の紹介も行う（自浄作用により安全を担保）
- 「開業・独立希望者層」に桐生市の移住受入の特長を持たせるため、県とは別の追加助成を新規設置

### 【2】移住定住に関する情報メディア運営業務

- 移住支援策について分野・窓口横断でまとめ、情報掲載・更新を行う
- オンライン／オフラインでの問い合わせ情報を蓄積、WEB上で公開することで、移住者の集客・獲得効率を高める  
（興味に合わせて探しやすいFAQ形式、掲示板形式、など手法は要検討）
- 桐生暮らしの魅力を伝える編集コンテンツ（移住者インタビュー・コラム掲載等）

## 業務【1】補足(How/When)

- 「共通シート」による情報同期・接続を行う
- ・ 「共通シート」で分野横断でのヒアリング・提案（支援策、窓口）
- ・ 最終・最適な連携先の紹介・接続（共通シートによる情報同期、高い業務効率）
- 紹介・連携先イメージ（カッコ内の記載は例示）
- <仕事（しごと）>
- ・ 空き店舗（商店会、不動産会社）
- ・ 起業支援・シェアオフィス（ココトモ）
- ・ 空き農地・卸先飲食店舗（KIKI・地域おこし協力隊？）
- ・ お試し就農体験紹介（KIKI・地域おこし協力隊？）
- ・ プレ販売・チャレンジショップ（オーライ）
- ・ 金融施策（桐生信用金庫）
- <住宅（いえ）>
- ・ 空き家バンク（市・定住促進室）
- ・ 戸建・分譲／リノベ／賃貸（不動産会社、建築事務所）
- ・ お試し暮らし（市・定住促進室）
- <教育・子育て（こども）>
- ・ 保育園・幼稚園・小学校（市・子育て支援課）
- ・ 出産・子育て支援施設・サービス（ココトモ、市・子育て支援課）
- ・ 医療機関（ココトモ、市・子育て支援課）
- <コミュニティ（くらし）>
- ・ 桐生との繋がりが（桐生の特長的な店舗・事業者）

## KPI

- 問い合わせ件数／移住実行件数（組）
- ↳ 独立（起業）・開業移住 移住実行20組（仮）
- ↳ 一般移住 移住実行5組（仮）

## 実施体制（Who）

- 移住検討者・事業者と行政との間のハブになる組織・チーム（既存または新設団体への業務委託を想定）
- 以下の体制規模をイメージ
- ・ 事業管理担当 1名 ※委託先団体の職員を想定
- ・ 事務局・情報発信担当（WEB・SNS更新、リアルイベント等） 1～2名
- ※ 地域おこし協力隊（新規採用）を想定
- ・ コーディネーター 3～5名 ※フルタイムではなく業務委託を想定
- ※ コーディネーターは市内在住の移住者・Uターン経験者を想定

## 予算

- 民間への業務委託（新設または既存の団体・事業者を想定）
- ・ 事業管理担当 1名
- ・ 事務局・情報発信・WEB運用 1～2名 ※インターン制度の活用も検討
- ・ コーディネーター 3～5名
- 拠点施設
- ・ 賃料・光熱費、備品など
- 情報発信WEBサイト開発
- ・ 初期デザイン・開発
- ・ 保守・運用
- 情報発信・PR
- ・ 移住・定住イベント等への出展
- ・ メディア等への露出・出稿
- 店舗開業・独立移住者の市内居住時の追加助成原資
- ※ 群馬県移住支援金事業（最大100万円）とは別に上乗せ

# (参考) 桐生タイムスでの関連寄稿コラム

## 移住者家族の黒保根暮らし

### プリズム



今年初コラムです。移住から1年が過ぎて落ち着いた昨夏以降、再び移住者として意見を求められることが増えています。前職のリクルート社研究員時代から現在まで、全国の地域・自治体と仕事をやる中で、今改めて感じる。桐生が覚悟を持って移住者を受け入れるための必要な要素を整理してみたいと思います。

◆ターゲットは誰か  
私は現在、黒保根の移住者向け住宅に暮らして、前回は②についてお届けします。

### 移住受け入れに本気で取り組むために①

旅行パンチャー共同創業者 山本祐司さん ⑩

必要になるのが、この町の暮らして魅力を理解するに、は誰か開いたらよいか、全体を見て、先回して教える人はいませんか。ネット上での情報を得たとしても、その地域ならではのことが意外と多々ある。移住に回した経験はもたらさる人材は、この町にはたくさん

◆「あなたのために」  
また、そのような議論の際に、住民向けの格窓として、意見が必ずあります。が、極端に言えば、誰でも相談できる窓口は限定的に、山本祐司(やまもと・ゆうじ)さんは1984年生まれ、桐生市出身、東中(現清流中)・前橋高・早大卒。大学で地域経営などを学び、リクルート・じゃらんリサーチセンター研究員を経て独立。2019年夏に妻と当時2歳の長男と家族3人で東京から黒保根町に移住。イン스타그램「ヤマモト家」で移住生活を公開中。

## 移住者家族の黒保根暮らし

### プリズム



前回は、桐生が覚悟を持って移住者を受け入れるために必要な要素として、私なりに4点を挙げました。

◆ターゲットは誰か  
私は現在、黒保根の移住者向け住宅に暮らして、前回は②についてお届けします。

### 移住受け入れに本気で取り組むために②

旅行パンチャー共同創業者 山本祐司さん ⑪

口がそこにあれは、いわけでもなく、良も悪も感口となる人の出会いにより、後ろ向きな移住者もあつたため、トークの巧みや情報量よりも、求めていることを感じ取り、共感し、寄り添える人であるべき。そこから信頼を得て、今後適切な人や組織をつな

◆「あなたのために」  
山本祐司(やまもと・ゆうじ)さんは1984年生まれ、桐生市出身、東中(現清流中)・前橋高・早大卒。大学で地域経営などを学び、リクルート・じゃらんリサーチセンター研究員を経て独立。2019年夏に妻と当時2歳の長男と家族3人で東京から黒保根町に移住。インstagram「ヤマモト家」で移住生活を公開中。

## 移住者家族の黒保根暮らし

### プリズム



前回に続き、移住者の受け入れに必要な以下4点について考えます。

### 移住受け入れに本気で取り組むために③

旅行パンチャー共同創業者 山本祐司さん ⑫

◆ゆるやかにつながる  
桐生には、地域を愛し、思いを持って暮らす人が多くいます。移住検討者を持ちに接する機会を増やし、そこから数珠つなぎで紹介が広がっていく流れは、外の人には分かりませんが、最近の桐生の特長として、

◆「あなたのために」  
山本祐司(やまもと・ゆうじ)さんは1984年生まれ、桐生市出身、前橋高・早大卒。リクルート・じゃらんリサーチセンター研究員を経て、訪日外国人客向けアプリのWamaino(ワマノ)で共同創業者。2020年に家族で黒保根町に移住。インstagram「ヤマモト家」で移住生活を公開中。

※④(全4回の最終回)は5/2(月)掲載予定